

令和 2 年度

編入学学生募集要項
入 学 案 内

願 書 受 付 期 間	令和元年 11 月 5 日(火)～11 月 8 日(金)
学 力 検 査	令和元年 11 月 23 日(土・祝)
合 格 者 発 表	令和元年 11 月 29 日(金)
入学確約書の提出期限	令和元年 12 月 13 日(金)
入 学 手 続	令和 2 年 3 月 18 日(水)

独立行政法人 国立高等専門学校機構
久 留 米 工 業 高 等 専 門 学 校

目 次

令和2年度編入学学生募集要項

1	募集学科及び編入学年次	1
2	出願資格	1
3	志望学科	1
4	出願書類受付	1
5	出願手続	2
6	個人情報取り扱い	2
7	学力検査の出題科目及び配点	3
8	選抜方法	3
9	学力検査の日時及び検査場	4
10	受検上の注意事項	4
11	選抜結果の発表	4
12	入学確約書の提出	4
13	入学手続	4
14	受検上及び修学上特別な配慮を必要とする場合	4

入 学 案 内

1	本校の概要と特色	5
2	教育課程	7
3	JABEE 教育プログラムについて	8
4	入学時に必要な経費	10
5	入学料・授業料の免除及び徴収猶予制度	11
6	独立行政法人日本学生支援機構奨学金制度	11
7	学生寮	11
8	課外活動	12
9	卒業後の進路	12

令和2年度 編入学学生募集要項

入学者受入方針（アドミSSION・ポリシー）

本校が求める人物像は、次のとおりです。

- ① 技術者になる意欲をもっている人
- ② 理数系の基礎学力が身についている人
- ③ 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
- ④ 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

1. 募集学科及び編入学年次

系	学 科	募集人員	編入学年次
機械・電気・ 制御情報系	機 械 工 学 科	各学科 若干名	第4学年
	電気電子工学科		
	制御情報工学科		
化学・材料系	生物応用化学科		
	材料システム工学科		

2. 出願資格

編入学を志願できる者は、次のいずれかに該当する者とします。

- (1) 高等学校を卒業した者又は令和2年3月卒業見込みの者
- (2) 中等教育学校を卒業した者又は令和2年3月卒業見込みの者
- (3) 高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者

(注) 上記(3)により出願する者は、事前に学生課教務係へ問い合わせてください。

3. 志望学科

志望学科は、同一系内の学科から第2志望まで選ぶことができます。

4. 出願書類受付

- (1) 受付期間 令和元年11月5日(火)から令和元年11月8日(金)
- (2) 受付時間 9時から17時まで
- (3) 受付場所 〒830-8555 久留米市小森野一丁目1番1号
久留米工業高等専門学校 学生課 教務係

※受付期限を過ぎたものは、一切受け付けません。

(郵送の場合も同期間内に必着のこと。)

5. 出願手続

(1) 志願者は、出願に必要な次の書類等を整え、受付場所に提出してください。

書 類 等	摘 要
1 編入学願書	本校所定の様式に必要事項を記入してください。
2 照 合 票 受 検 票 入学検定料「振込受 付証明書」提出票	本校所定の様式に必要事項を記入し、写真を所定の位置に貼付してください。写真は、出願前3か月以内に撮影した、上半身・脱帽・正面向き（縦4cm×横3cm）のものを使用してください。
3 入 学 検 定 料	16,500円 本校所定の「振込依頼書」又は郵便局（ゆうちょ銀行）に備え付けの「振込依頼書」により、志願者本人の氏名で金融機関窓口から振り込んでください。 振込期間：令和元年10月28日(月)から令和元年11月8日(金) 金融機関窓口の営業時間に十分注意してください。 振り込み後、本校所定の「振込依頼書」の場合は「振込受付証明書」（学校提出用）、郵便局（ゆうちょ銀行）に備え付けの「振込依頼書」の場合は「振込払出請求書預金口座振替による振込受付書」（コピー可）を入学検定料「振込受付証明書」提出票に貼付してください。 <注意> 1) 郵便局（ゆうちょ銀行）からの振込は、本校所定の「振込依頼書」を使用することはできません。郵便局（ゆうちょ銀行）専用の「振込依頼書」に記入が必要です。 2) 郵便局（ゆうちょ銀行）からの振込は、口座からのみ可能で、現金による振込はできません。ご利用の際は、『通帳と届出印』又は『キャッシュカード』が必要です。 3) 不明な点は、郵便局（ゆうちょ銀行）にお尋ねください。
4 調 査 書	在籍（出身）学校所定の用紙により、学校長が作成し厳封したもの
5 受検票送付用封筒	受検票の郵送を希望する志願者は、定型封筒に住所と氏名及び郵便番号を明記し、404円切手（簡易書留郵便料）を貼付して提出してください。
6 あ て 名 票	諸連絡に使用するもので、正確に記入してください。

(2) 郵送する場合は**書留郵便**とし、封筒表面に「**編入学願書在中**」と**朱書**してください。

6. 個人情報の取扱い

編入学志願者から提出された編入学願書や調査書等に記載されている情報及び選抜に用いた試験成績・評価といった編入学者選抜を通じて取得した個人情報は、編入学者選抜の業務として利用するとともに、次の目的のためにも利用します。

- (1) 入学後の教育・指導
- (2) 入学料、授業料の免除又は徴収猶予に係る申請の審査
- (3) 奨学金申請の審査
- (4) 本校及び国立高等専門学校全体の教育制度・入学者選抜制度の改善のための調査・研究

注 意 事 項

1. 出願書類の不備なものは受け付けません。また、出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学後であっても入学許可を取り消すことがあります。
2. 願書提出後は、志望学科及びその他記載事項の変更は認めません。
3. 記載事項を訂正する場合は、訂正箇所を＝線で抹消し、押印の上、訂正事項を記入してください。
4. 受理した出願書類及び出願書類受理後の検定料は返還しません。
納付された検定料の返還請求ができるのは、次の場合になります。
 - ・検定料を納付したが出願しなかった場合
 - ・検定料を重複で納付した場合
 上記の場合は、本校学生課教務係へ連絡願います。

7. 学力検査の出題科目及び配点

志 望 系	志 望 学 科	出 題 科 目(範囲)	配 点
機械・電気・ 制御情報系	機 械 工 学 科 電 気 電 子 工 学 科 制 御 情 報 工 学 科	数学 { 数学Ⅰ(数と式、図形と計量、二次関数)、数学Ⅱ、数学Ⅲ } { 数学A(場合の数と確率)、数学B(数列、ベクトル) }	150 点
		英語 (コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ)	150 点
		理科 { 下記の(ア)、(イ)、(ウ)、(エ)のいずれか } { 1つを選択 }	200 点
		(ア)物 理 (物理基礎、物理)	
		(イ)機械系専門 (機械設計、機械製図、機械工作、原動機)	
化学・材料系	生 物 応 用 化 学 科 材 料 シ ス テ ム 工 学 科	(ウ)電気系専門 (電気基礎、電子基礎、情報基礎)	200 点
		(エ)制御情報系専門 (電気基礎、電子情報技術、ハードウェア技術、アルゴリズムとプログラム)	
		合 計	500 点
		数学 { 数学Ⅰ(数と式、図形と計量、二次関数)、数学Ⅱ、数学Ⅲ } { 数学A(場合の数と確率)、数学B(数列、ベクトル) }	150 点
		英語 (コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ)	150 点
化学・材料系	生 物 応 用 化 学 科 材 料 シ ス テ ム 工 学 科	理科 { 下記の(オ)、(カ)、(キ)、(ク)のいずれか } { 1つを選択 }	200 点
		(オ)化 学 (カ)物 理 (化学基礎、化学) (物理基礎、物理)	
		(キ)化学系専門 (有機化学、分析化学、物理化学、化学工学)	
		(ク)材料系専門 (材料製造技術、工業材料、材料加工)	500 点
		合 計	

8. 選抜方法

編入学者の選抜は、学力検査、学校長から提出された調査書をもとに総合的に判断します。ただし、3教科の合計点が50% (250点) 以上で、かつ、各教科の得点が40% (数学60点、英語60点、理科80点) 以上の者を合否判定の対象とします。

9. 学力検査の日時及び検査場

期 日	科 目	時 間	検 査 場
令和元年 11月23日(土・祝)	数 学	9時00分～10時30分	久留米工業 高等専門学校
	英 語	10時50分～12時20分	
	理 科	13時10分～15時10分	

※検査当日は、8時40分までに本校学生課前に集合してください。

10. 受検上の注意事項

- (1) 遅刻による検査室への入室限度時刻は検査開始後30分とします。なお、交通機関の事故又はやむを得ない事由により、検査開始後30分以上遅刻した者は、必ず受検予定検査室の監督者に申し出てください。
- (2) 検査時間中の退室は、用便又は発病等やむを得ない場合を除き認めません。
- (3) 受検票を紛失した場合は、検査場で仮受検票の発行を申し出てください。
- (4) 受検票は、必ず机の上に置いてください。
- (5) 受検中は、黒鉛筆・黒シャープペンシル・消ゴム・鉛筆削り・時計（時計機能だけのもの）以外のものは使用できません。
- (6) 携帯電話及びその他通信機器の検査室への持ち込みは認めません。
- (7) 昼食は各自で用意してください。昼食は検査室でとつても差し支えありませんが、ゴミは各自持ち帰ってください。

11. 選抜結果の発表

令和元年11月29日(金) 10時

合格者の受検番号を本校内に掲示します。なお、全受検生に対して、選抜結果通知書を発送します。（電話・ファクシミリ等による問い合わせには応じません。）

12. 入学確約書の提出

合格通知を受けた者は、令和元年12月13日(金)までに「入学確約書」を提出してください。

なお、期限までに「入学確約書」を提出しない者は、入学の意志がないものとして取り扱います。

【注意】「入学確約書」は最終的に合格者の入学意志を確認するものです。提出後に変更することはできませんので、慎重に意志決定してください。

13. 入学手続

合格者は、令和2年3月18日(水)13時30分から入学手続き及び入学説明会を行いますので、出校してください。

なお、当日入学手続きを行わない者は、入学を許可しません。

14. 受検上及び修学上特別な配慮を必要とする場合

本校に出願予定の身体に障がいをもつ志願者で、受検上若しくは修学上特別な配慮を希望する場合は、出願に先立ち、事前に相談してください。

事前相談は、それぞれの障がいの種類に応じた特別措置の対応上、出願受付開始日1週間前までに学生課教務係へ連絡してください。

入 学 案 内

1. 本校の概要と特色

(1) 本校の沿革

本校は、昭和 14 年久留米高等工業学校が設立されたことに始まり、久留米工業専門学校、久留米工業短期大学（昭和 33 年設立）と変遷し、実践的技術者の養成という時代の要請を受けて、昭和 39 年に現在の久留米工業高等専門学校となりました。

平成 5 年 4 月には、九州で最初に専攻科が設置され、優れた教授陣と充実した設備を誇っています。

(2) 教育理念

自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成

(3) 各学科の教育目的・目標

○機械工学科

教育目的

ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得し、創造性豊かで国際的視野に立った実践的技術者を育成する。

教育目標

機械技術者としての素養を備え、次の専門分野の基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。

- ・材料強度
- ・機械力学
- ・設計製図
- ・生産加工
- ・制御、情報
- ・熱、流体
- ・機械工学に関連した周辺技術

○電気電子工学科

教育目的

先端技術であるエレクトロニクスと ICT、及びこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得し、高度情報通信社会に貢献できる実践的、創造的電気電子技術者を育成する。

教育目標

電気電子技術者としての素養を備え、次の技術分野に関する専門知識と技術を修得し、それらを総合的に活用できる能力を養成する。

- ・エレクトロニクス
- ・情報通信技術（ICT）
- ・電気エネルギー、パワーエレクトロニクス
- ・電気電子工学に関連した周辺技術

○制御情報工学科

教育目的

制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得し、広い視野と豊かな創造性を備え、さまざまな産業分野において活躍できる実践的能力に優れた技術者を育成する。

教育目標

メカトロニクスや情報の分野で活躍できる技術者になるために必要な次の分野の基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。

- ・メカトロニクス、コンピュータ制御
- ・情報工学、通信ネットワーク
- ・制御情報工学に関連した周辺技術

○生物応用化学科

教育目的

化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識及び技術者素養を修得し、個別の知識を複合化して使いこなし、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。

教育目標

化学工業、バイオ工業に必要な次の専門分野に関する専門知識、豊富な実験技術を修得し、環境に配慮し技術者倫理を守って、それらを課題解決及び企画立案に活用できる能力を養成する。

(両コース共通)

- ・化学、生物の基礎
- ・化学工学、環境工学
- ・情報リテラシー
- ・技術者素養

(応用化学コース)

- ・有機化学、高分子化学
- ・ポリマー工学
- ・機能性有機材料

(生物化学コース)

- ・生物有機化学
- ・バイオプロセス工学
- ・遺伝子・細胞工学

○材料システム工学科

教育目的

ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまでの材料に関する一連の専門知識を身につけ、社会の発展に貢献できる技術者を育成する。

教育目標

金属、セラミックス、高分子材料などに関する次にあげる基礎的な知識や技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。

- ・構造、性質、機能
- ・製造プロセス、加工、リサイクルに関する技術
- ・設計、解析、評価
- ・材料工学に関連した周辺知識

(4) 本校の特色

○恵まれた環境

本校は、久留米市の北西部、小森野にあり交通も西鉄バス、西鉄天神大牟田線、JR 線が通学路線として利用できます。

また、キャンパスは筑後川に面し、東に耳納連山、西に背振・九千部山を望む景勝の地にあります。

○編入生に対する教育課程上の配慮

本校は、昭和 61 年度から編入生を受け入れています。3 年生までの専門科目の対応として、4 年次に編入生用の科目を開講しています。

○卒業後の幅広い進路

本校の卒業生には、準学士の称号が与えられ、進路も企業等への就職、専攻科への進学、大学 3 年次への編入学と大きく開かれています。

本校の専攻科（2 年制）は、機械・電気システム工学専攻（機械工学系・電気電子工学系・制御情報工学系）と物質工学専攻（生物応用化学系・材料工学系）の 2 専攻があります。専攻科を修了し、大学改革支援・学位授与機構の一定の要件を満たせば学士の学位を取得でき、さらに専攻科修了後は、大学院へ進学することもできます。

2. 教育課程

入学後4・5年生で修得できる専門科目は次のとおりです。ただし、今後、変更する場合があります。

	科 目 名				
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科
必修科目	応用数学1	電磁気学3	応用数学1	物理化学2	情報処理2
	応用数学2	電気回路3	応用数学2	無機化学1	応用数学1
	応用数学3	半導体工学	電磁気学	無機化学2	応用数学2
	安全工学と工業倫理	応用物理2	電子回路	有機化学2	応用数学3
	工業英語	応用数学1	電気回路2	高分子化学1	応用設計製図・CAE
	機械工学セミナー	応用数学2	ロボット工学	有機金属化学	電気電子工学概論
	機械設計製図	電気機器工学2	計測工学	有機合成化学	セラミックス材料学2
	機械要素設計実験	パワーエレクトロニクス	制御工学1	高分子化学2	材料化学2
	機械設計法1	高電圧工学	制御工学2	機能有機材料	物理化学2
	機械設計法2	電力発生工学	制御工学実験	応用化学実験	高分子材料学
	工業力学	電力システム	パワーエレクトロニクス	ポリマー工学	電気化学1
	機械力学	電力応用	半導体材料工学	生物有機化学	電気化学2
	材料力学2	機械工学概論	工業倫理と安全	遺伝子・細胞工学	環境工学
	四力学演習	制御工学	物質工学概論	代謝工学	金属物理学2
	制御工学	計算機アーキテクチャ2	機械工学概論	生物工学実験	材料物性学1
	精密加工学	電子回路	データベース基礎	バイオ工学	材料物性学2
	品質管理	電気電子計測	創造プログラミング演習	化学工学1	塑性加工学
	流体工学	情報インフラストラクチャー	電子情報実験	化学工学2	材料強度学
	流体機械	情報理論	情報理論	機器分析	金属材料学1
	工業熱力学	通信ネットワーク	離散数学	工業物理化学1	金属材料学2
	伝熱工学	技術社会の安全と倫理	数値計算法	工業物理化学2	融体加工学
	機械工学実験	電気施設管理	データ構造とアルゴリズム	機械工学概論	材料評価学
	卒業研究	コミュニケーション	計算機システム	電気電子工学概論	工業英語
	電気電子工学概論	システム工学	オペレーティングシステム	応用数学	安全工学・工業倫理
	化学工学概論	電気電子設計	デジタル回路設計	環境工学	材料システム実験3
		電気電子材料	コンパイラ	情報処理演習	材料システム実験4
		生物応用化学概論	ソフトウェア工学	物化・化工実験	材料システム実験5
		電気電子実験2	計算機アーキテクチャ1	品質・安全工学	卒業研究
		電気電子実験3	計算機アーキテクチャ2	産業財産権・工業倫理	
		卒業研究	信号処理	卒業研究	
			通信工学	工業英語	
			マルチメディア工学		
			情報通信実験		
			卒業研究		
選択科目	※機械工学概論	※電気電子工学概論	※制御情報工学基礎A	※生物応用化学概論	※材料工学概論
	短期インターンシップ	短期インターンシップ	※制御情報工学基礎B	科学技術史	短期インターンシップ
			短期インターンシップ	短期インターンシップ	接合工学・複合材料
					金属熱処理論
					品質工学

※は編入生用授業科目

3. JABEE^(注) 教育プログラムについて

久留米工業高等専門学校には、JABEE 教育プログラムとして、下記の機械工学プログラム、電気電子工学プログラム、制御情報工学プログラム、生物応用化学プログラム、材料工学プログラムの5つの教育プログラムが認定されています。各教育プログラムは、4・5年次及び専攻科1・2年次の教育課程から構成されています。

なお、本校4年次に編入学後、各教育プログラムの履修に必要な3年次までの単位修得科目については、各学科で補講、補習を実施します。詳細については、本校ホームページ(<http://www.kurume-nct.ac.jp>)を参照してください。

(注) 日本技術者教育認定機構のことで、Japan Accreditation Board for Engineering Education の略称である。

機械工学プログラムの学習・教育到達目標

- (A) 広い視野から技術者倫理を理解し自覚できる。
 - (A-1) 技術者倫理を広い視野から多面的に考えることができる。
 - (A-2) 技術者倫理に対しその責任を理解できる。
 - (A-3) 技術者倫理に対しその責任を自覚できる。
- (B) 数学、物理、情報技術に関する知識を専門分野に応用できる。
 - (B-1) 数学に関する知識とその工学的応用力
 - (B-2) 物理に関する知識とその工学的応用力
 - (B-3) 情報処理に関する知識とその工学的応用力
- (C) 機械工学に関する以下の専門知識を教授し、職業上応用できる基礎能力を学生の進路に配慮し育成する。
 - (C-1) 材料と強度
 - (C-2) 機械設計
 - (C-3) 生産工学
 - (C-4) 熱・流体工学
 - (C-5) 制御・情報技術
- (D) 実験・演習を実施し、その結果を工学的に解析し考察できる。
 - (D-1) 機械工学を学ぶ上で必要な各種の機械や機器の操作ができる。
 - (D-2) 実験・演習の結果を工学的に解析し考察できる。
- (E) 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施できる。
- (F) 種々の工学的知識や技術を利用し、自己学習やグループ学習により社会の要求を解決できる。
- (G) 専門技術に関するプレゼンテーションと国際化に対応できる基礎的なコミュニケーションができる。
 - (G-1) 専門技術に関するプレゼンテーションができる。
 - (G-2) 国際化に対応できる基礎的なコミュニケーションができる。
- (H) 与えられた条件のもとで技術者として地域社会に貢献できる。

電気電子工学プログラムの学習・教育到達目標

- (A) 先端の電気エネルギーをマネジメントできる電気電子技術の習得
 - (A-1) 電気エネルギーの発生やその制御のしくみを理解し説明できる。
 - (A-2) 電気エネルギーに関する専門的知識、技術を設計に応用できる。
- (B) 先端の情報通信・電子機器を活用できる電気電子技術の習得
 - (B-1) ICT 電子機器のしくみを理解し説明できる。
 - (B-2) ICT 電子機器に関する知識、技術を設計に応用できる。
- (C) もの、製品をベースにした技術実務能力の習得
 - (C-1) 電力、電気、電子機器に関する実験を計画、遂行できる。
 - (C-2) 実験データを解析、考察し説明できる。
 - (C-3) 共同で実験・演習を遂行できる。

- (D) 電気電子技術の基礎となる学力の修得
 - (D-1) 数学、物理などの自然科学や情報技術に関する基礎事項を説明できる。
 - (D-2) 自然科学や情報技術に関する基礎事項を電気電子技術の専門領域で適用できる。
- (E) 技術に関するコミュニケーション能力の育成
 - (E-1) わかりやすく論理的に情報や意見を文書や口頭で伝達できる。
 - (E-2) 英語により電気電子技術に関する基本的なコミュニケーションができる。
- (F) 技術者倫理感覚の育成
 - (F-1) 技術が地域社会や国際社会あるいは自然環境に及ぼす影響、効果を理解できる。
 - (F-2) 規格、品質、安全性等に関する技術者の責任を説明できる。
- (G) 企画・管理能力の育成
 - (G-1) 実験・実習や社会との連携活動の中から技術的な課題を見出すことができる。
 - (G-2) 技術的な課題を解決するための計画を立案し遂行できる。

制御情報工学プログラムの学習・教育到達目標

- (A) 技術者としての広い視野と倫理観
 - (A-1) 豊かな心を持ち、広い視野で物事を捉えることができる。
 - (A-2) 技術者としての倫理観を持ち、技術が社会、自然環境に及ぼす効果や影響を理解できる。
- (B) 基礎工学の知識と応用力
 - (B-1) 数学、自然科学、情報に関する知識を持ち、基礎的な工学問題の解決に応用できる。
 - (B-2) 制御、情報工学専門周辺の基礎工学に関する知識を持ち、基礎的な工学問題の解決に活用できる。
- (C) 専門工学の知識と応用力
 - (C-1) 制御、情報およびこれらに関連した機械、電気電子分野の専門知識を持ち、工学問題の解決に応用できる。
 - (C-2) 各専門分野の知識、技術を複合的に関連づけることができる。
 - (C-3) 上記の分野の基礎的な知識・技術をもとに実験し、分析、考察することができる。
- (D) デザイン力
 - 学んだ知識や技術をベースにして社会の要求に対する解決法を立案し、実現までの手順を計画することができる。
- (E) コミュニケーション力
 - (E-1) 日本語で自己の考えや知識を的確に表現し、議論することができる。
 - (E-2) 英語による基礎的なコミュニケーションができる。
- (F) 実践力
 - (F-1) 他者と協力して課題に取り組むことができる。
 - (F-2) 自ら学んで、必要な知識や情報を獲得し、継続的に学習できる。
 - (F-3) 与えられた課題に対して、計画的に作業を進め、期限内にまとめることができる。

生物応用化学プログラムの学習・教育到達目標

- (A) 技術者倫理と多面的視野
 - (A-1) 技術者として必要な倫理観を身に付け、管理能力、社会に対する説明責任能力を習得する。
 - (A-2) 地球的規模で環境を考え技術をデザインする能力を習得する。
- (B) 生物応用化学基礎と工学基礎
 - (B-1) 生物及び化学に関する基礎知識を習得する。
 - (B-2) 物理、数学及び情報技術を工学に応用できる。
- (C) 生物応用化学の専門知識と応用力
 - (C-1) 生物化学若しくは応用化学に必要な専門知識および両分野に共通して必要な専門知識を習得し、それらを当該工業分野に応用することができる。
 - (C-2) 生物化学若しくは応用化学に必要な実験技術及び両分野に共通して必要な実験技術

- を体得し、それらを種々の問題解決に応用することができる。
- (D) 生物応用化学基礎、工学基礎、生物応用化学の専門知識を活用し、社会の要求を解決するための企画力を持っている。
- (E) 国際化に対応できるコミュニケーション基礎能力を習得する。
- (F) 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施することができる。
- (G) 地域社会を中心とした産業界に技術者として広く貢献できる。

材料工学プログラムの学習・教育到達目標

- (A) 自然科学および情報処理技術に関する知識
- (A-1) 数学、物理、化学などの自然科学に関する基礎知識を持ち、その応用ができる。
- (A-2) 情報処理に関する知識や技術を専門分野に適応できる。
- (B) 材料に関する基本的知識と応用力
- (B-1) 材料、特に金属及びセラミックス材料の物性、構造、性質についての基礎知識を身に付けている。
- (B-2) 材料、特に金属及びセラミックス材料の製造プロセスについての基礎知識を身に付けている。
- (B-3) これらの知識を工学問題の解決に活用できる。
- (C) 工学的基礎原理・現象の理解能力
- 工学的な基礎原理・現象を実験によって理解できる。
- (D) 調査および実行能力
- (D-1) 課題に対して自主的に調査できる。
- (D-2) 計画性を持って物事に取組み、実行できる。
- (D-3) 課題の結果を間違いの少ない文章および口頭で表現し、討論できる。
- (E) 異文化理解とコミュニケーション能力
- 英語により材料工学に関する基本的コミュニケーションができる。
- (F) 多面的視野と技術者倫理
- (F-1) 技術の人間社会や自然環境への関わりを理解し、グローバルに物事を考えることができる。
- (F-2) 技術者の社会的責任を自覚することができる。
- (G) 地域産業での実務経験
- インターンシップなどの実務経験を通して、多面的に物事を考えることができる。

4. 入学時に必要な経費

費 目	金 額	適 用
入 学 料(注 1)	84,600 円	納付期限:令和2年 3 月 13 日(金)
授 業 料(注 2)	前期分 117,300 円	年額 234,600 円
教科書代等(注 3)	約 60,000 円	
そ の 他 諸 経 費	約 52,000 円	
合 計	約 313,900 円	

(注 1) 入学手続後の入学料は返還しません。

(注 2) 上記の納付金額は、入学時及び在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新たな授業料が適用されます。

(注 3) 教育方法の改善により、教科書代等教材費が増額される場合があります。

(注 4) 4年生で国内工場見学旅行を行うので、この学年で別途 10 万円程度が必要となります。

5. 入学料・授業料の免除及び徴収猶予制度

(1) 入学料について

入学前 1 年以内において、入学する者の学資を主として負担している者が死亡又は風水害等の災害を受ける等、入学料の納付が著しく困難であると認められる場合には、入学料の全額又は半額を免除する制度があります。また、経済的理由等で納付期限までに納付が困難であり、かつ、学業成績優秀と認められる場合は、徴収の猶予を許可する制度があります。

(2) 授業料について

経済的理由等により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる学生に対しては、選考の上、授業料の全額又は半額を免除する制度があります。また、経済的理由等で納付期限までに納付が困難であり、かつ、学業成績優秀と認められる場合は、徴収の猶予を許可する制度があります。

6. 独立行政法人日本学生支援機構奨学金制度

独立行政法人日本学生支援機構の規定に基づき、人物・学業ともに特に優れ、かつ、健康であって経済的理由等により就学に困難があると認められる者に対して、選考の上、奨学金が貸与されます。貸与月額は令和元年度の場合、次のとおりです。

月 額	自宅通学者	45,000 円	自宅外通学者	51,000 円
-----	-------	----------	--------	----------

なお、上記の金額のほか、3 万円を選択することもできます。

7. 高等教育の修学支援新制度

令和 2 年 4 月 1 日から、高専の 4・5 年生及び専攻科生が対象となる授業料等減免制度の新設及び給付型奨学金の支給拡充が予定されています。詳細については、文部科学省ホームページ「高等教育段階の教育費負担軽減」を参照願います。

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/index.htm

8. 学生寮

本校敷地内に寄宿舎があります。

男子寮（4 階建）は、1 室 1 名用、2 名用と 3 名用のあわせて 141 室、収容定員は 210 名です。また、女子寮（3 階建）は、1 室 1 名用と 2 名用あわせて 22 室、収容定員 30 名です。

入寮希望者は、選考の上、許可します。

費 目	月 額	摘 要
寄 宿 料	700 円	1 名部屋以外
	800 円	1 名部屋
給 食 費	約 30,000 円	朝・昼・夕食付
光熱水料費等	8,000 円	エアコンのリース代を含む。
合 計	約 38,800 円	

(注 1) 上記のほか、入寮時に入寮費 1,000 円が必要です。

(注 2) 上記の納付金額は、入寮時及び在寮中に改定される場合があります。

9. 課外活動

本校では、勉学はもとより有意義な学生生活を送るため課外活動にも力を入れており、現在のクラブがあります。

体育系クラブ	剣道部	文化系クラブ
陸上競技部	弓道部	英会話部
水泳部	合気道部	吹奏楽部
バスケットボール部	ハンドボール部	軽音楽研究部
バレーボール部	ソフトテニス部	茶道部
サッカー部	サイクリング同好会	囲碁将棋部
ラグビー部	技術系クラブ	美術部
テニス部	自動車部	新聞文芸部
卓球部	ロボットコンテスト部	華道部
バドミントン部	プログラミングラボ部	写真部
硬式野球部	鳥部	ピアノ同好会
柔道部	自然エネルギー研究部	ダンス同好会

10. 卒業後の進路

(1) 就職

過去5年間の卒業生の主な就職先				
機 械 工 学 科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科
三菱重工業	九州電力	富士通	旭化成	日本製鉄(旧新日鐵住金)
川崎重工業	関西電力	富士通九州システムズ	出光興産	三井金属鉱業
日産自動車	中部電力	NECフィールディング	宇部興産	J X 金属
ダイハツ工業	西日本旅客鉄道	N T T - M E	A G C	田中貴金属グループ
ヤマハ発動機	電源開発	日立製作所	花王	アーレスティ
ブリヂストン	ソーセーコンダクタマニファクチャリング	セイコーエプソン	サントリースピリッツ	昭栄化学工業
ヤンマー建機	キヤノンメディカルシステムズ	ソーセーコンダクタマニファクチャリング	JXTG エネルギー	宇部興産
カシフジ	小松製作所	パナソニック	J N C	DOWAソーモンジエアリング
ダイキン工業	平田機工	ファナック	昭栄化学工業	高周波熱錬
三菱電機	コニカミノルタジャパン	ダイキン工業	住友精化	東研サーモテック
N O K	宇宙航空研究開発機構	サントリースピリッツ	第一三共プロファーマ	東伸熱工
日本精工九州	日産自動車九州	三井化学	ダイキン工業	ダイキン工業
第一精工	NSウエスト	本田技研	大日精化工業	日産自動車
昭栄化学工業	西部ガス	トヨタ自動車九州	D I C	日本精工(日本精工九州)
ファナック	第一精工	九州電力	中外製薬	N O K
キヤノン	江崎グリコ	関西電力	東レ	東プレ(東プレ九州)
ANAグループ	明電舎	西日本旅客鉄道	日東電工	ジェイテクト
東海旅客鉄道	アイシン精機	浜松ホトニクス	ニプロ	第一精工

(2) 進 学

本校には、平成 5 年度に設置された 2 年制の特例適用専攻科があり、機械・電気システム工学専攻、物質工学専攻の 2 専攻があります。専攻科は、高等専門学校における教育の上に、高度な研究開発や先端技術分野における先端的な技術を担い、広く産業の発展に寄与できる技術者を育成します。

専攻科修了者は、大学改革支援・学位授与機構の一定の要件を満たせば学士の学位を取得でき、さらに専攻科修了後は、大学院へ進学することもできます。

また、大学の 3 年次への編入学制度があり、長岡技術科学大学と豊橋技術科学大学をはじめ、国公私立大学へ編入学できます。

高専専攻科及び大学編入学合格状況

卒業年度		28 年	29 年	30 年	卒業年度		28 年	29 年	30 年
大学等名					大学等名				
国 立	本校専攻科	43	48	60	国 立	九州大学	5	8	8
	東京大学			2		九州工業大学	6	5	3
	奈良女子大学	1				佐賀大学	3	4	10
	静岡大学			1		熊本大学	4	6	5
	筑波大学	4		2		宮崎大学	1		
	室蘭工業大学	1	1			鹿児島大学	2	7	2
	千葉大学		1						
	東京農工大学	1							
	東京工業大学	2	1	3					
	電気通信大学			1					
	横浜国立大学	1			公 立				
	福井大学		1						
	長岡技術科学大学	1		1					
	京都工芸繊維大学		1						
	新潟大学			1					
	和歌山大学		1						
	豊橋技術科学大学	11	6	18					
	大阪大学	2	1	1					
	神戸大学	1	1						
	愛媛大学			2	私 立	福岡大学	1		
	広島大学		2	2		関西大学	1		
	大分大学	1		1					
	山口大学		1	2					
						合計	92	90	125
・ 令和 2 7 年度以前に合格実績がある上記以外の国立大学 北海道大学、岩手大学、秋田大学、茨城大学、宇都宮大学、山形大学、岐阜大学、東北大学、お茶の水女子大学、山梨大学、信州大学、富山大学、滋賀大学、京都大学、新潟大学、奈良女子大学、鳥取大学、島根大学、徳島大学、高知大学、長崎大学、埼玉大学、三重大学、広島商船高専専攻科、金沢大学、名古屋工業大学、琉球大学、名古屋大学、岡山大学 等									